

滞在日数に着目した地方誘客のための周遊ルート形成

小竹輝幸 株式会社ナビタイムジャパン インバウンド事業部
高橋一貴 株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業部
野津直樹 株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業部
秋元健 株式会社電通 CDC
山本真弓 独立行政法人国際観光振興機構 インバウンド戦略部
村山慶太 独立行政法人国際観光振興機構 インバウンド戦略部

キーワード：誘致戦略、地方誘客、周遊ルート、インバウンド、ビッグデータ

【目的】本研究では、「東北」「瀬戸内」地域を対象に FIT 旅行者の地方における旅行動態について、ビッグデータを活用し分析するとともに、地方ならではの魅力を発見し、観光周遊ルートの潜在的なニーズや課題を把握することで、日本全国において運用可能なプロモーションや誘客に繋がる調査手法の基本モデルの設計・開発を行った。

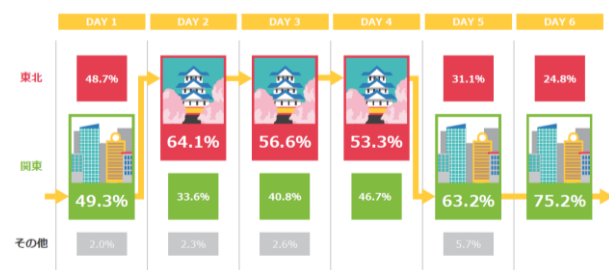
【方法】(株)ナビタイムジャパンが提供する訪日客向け多言語観光案内アプリ「NAVITIME for Japan Travel」において、平成 26 年 11 月～平成 28 年 11 月の 25 ヶ月間に取得した訪日客の移動実績、2015 年の RESAS の国・地域別訪問者数や観光庁訪日外国人消費動向調査を用いた。

【結果と考察】

① 東北地域分析

＜旅行実態を知る＞東北地域への訪日客を国・地域別に見ると台湾が 37.7%で最も多く、次いで中国が 18.2%、米国が 9.5%となっている。平均的な旅程と都道府県訪問率を見ると、最も来訪者が多い台湾は平均宿泊が 5 泊程度、都道府県の訪問率は 2.3 県、最も滞在日数が長く訪問率が高いオーストラリアは 12 泊程度、3.9 県であり、宿泊数の差ほど訪問県数で差がつかず、1 回の旅行では概ね 2～4 県訪問する旅行実態が明らかとなった。また、東北地域に滞在した人を対象に、日本旅行時の総滞在日数と東北地域内の滞在日数の関係を見ると、全旅程が 6 日の場合、東北地域滞在日数は 2.64 日、13 日の場合 3.67 日という結果となった。このことから日本旅行時の総滞在日数の長さはさほど影響せず、東北地域の滞在日数は 2～4 日という実態が見えてきた。

一般的な東北地域滞在パターンは、日本 6 日滞在中の場合、初日は東北宿泊が 48.7%、関東宿泊が 49.3%と半々程度であるが、5 日目、6 日目の滞在は東北宿泊がそれぞれ 31.1%、24.8%、関東宿泊が 63.2%、75.2%と帰国日直前には出国空港の近くの関東宿泊の割合が高くなる傾向があり、東北の滞在は 2～4 日目で 53.3%～64.1%と旅程の間に訪問する傾向が高いことが分かった(図 1)。成田・羽田空港からの入国者を対象に入国初日宿泊地の違いによる、その後の旅程の範囲を見ると、「入国初日に東北に宿泊した人」は「割合は少ない



(図 1) 日本 6 日滞在中における日別の宿泊地域

ものの存在する」こと、「その後の旅程が東北に集中する」ことが把握できた(図2)。

＜ターゲットのインサイトを知る＞具体的な周遊プランを作成するにあたっては、ターゲット国と地域を設定し、その特徴を把握する必要がある。東北では来訪者数が圧倒的に多い台湾がターゲットとして魅力的である。台湾は女性の20～40代、男性30代の訪日が多く、同行者は家族や友人が多い。宿泊場所はホテルや旅館で9割を超えており、季節的には4月と10～11月が多く、桜と紅葉と雪が目的であると想定される。

＜周遊プランを作る＞旅行実態から見えてきた旅程パターンと、ターゲットインサイトから見えてきた旅行スタイルを元に、季節ごとに強い訴求力をもつ観光資源と紐付け、ターゲットごとの周遊プランを作成することが肝要である。

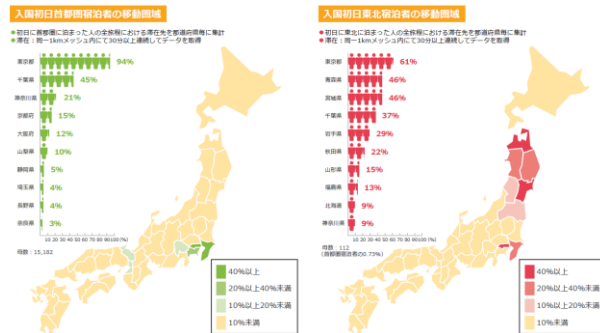
② 瀬戸内地域分析

瀬戸内地域においても東北地域と同様の分析を行った。瀬戸内地域に滞在した人を対象に、日本旅行時の総滞在日数と瀬戸内地域内の滞在日数の関係を見ると、全旅程が6日の場合、瀬戸内地域滞在日数は1.84日、13日の場合2.3日という結果となった。このことから日本旅行時の総滞在日数の長さはさほど影響せず、瀬戸内地域内の滞在日数は2～3日という実態が見えてきた。また、旅程は近畿地域との結びつきが強く、日本滞在6日の場合、旅程の1～5日目の間に瀬戸内地域に2日程度滞在して、近畿地域に戻るパターンが多く見られた。関西空港からの入国者を対象に、入国初日の宿泊地の違いによる、その後の旅程の範囲を見ると、「入国初日に瀬戸内に宿泊した人」は「割合は少ないものの存在する」こと、その場合は「その後の旅程の瀬戸内比率が高まる」ことが把握できた。関西国際空港入国者でも初日の宿泊地を広島県・岡山県・香川県にした人がおり、これらの県には台湾からの直行便が飛んでいることから台湾から地方空港へのダイレクトイン利用を促進することで、瀬戸内地域内の滞在日数を延ばせる可能性がある。

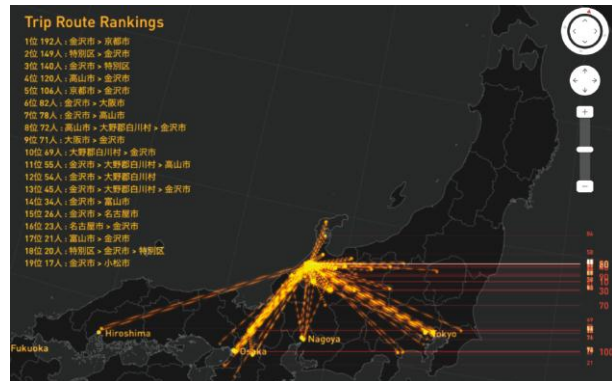
③ RTA(Round Trip Analyzer)の作成

FIT 旅行者の日本における回遊状況を「市区町村間の移動」という単位で把握するためのビジュアルライズツールを開発した。なお、RTAはGPS測位によって取得された「24時間以内の移動経路データ」を集計・描画できる機能を有す(図3)。

【まとめ】本研究では、「東北」「瀬戸内」地域の調査結果を基に、日本全国において運用可能な調査手法の基本モデルを設計・開発し、広域周遊プランプランニングガイドを作成した。FIT旅行者の日本における回遊状況を「市区町村間の移動」という単位で把握できるビジュアルライズツール(RTA(Round Trip Analyzer))を開発した。今後の課題として、プランニングガイドとRTAの観光戦略策定者への普及啓蒙活動、調査手法を実際の地域で実施することなどが挙げられる。



(図2) 入国初日宿泊地別の行動圏域



(図3) RTA(Round Trip Analyzer)の画面